

監査第46号

令和元年（2019年）11月26日

小田原市足柄財産区財産管理者

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市監査委員 岡 本 重 治

小田原市監査委員 数 馬 勝

小田原市監査委員 鈴 木 美 伸

平成30年度小田原市足柄財産区歳入歳出決算審査意見書の提出について

平成30年度小田原市足柄財産区歳入歳出決算書及び附属書類を審査したので、その結果に基づく意見書を次のとおり提出します。

## 平成30年度小田原市足柄財産区歳入歳出決算審査意見書

### 1 審査の対象

(1) 小田原市足柄財産区歳入歳出決算

(2) 決算附属書類

足柄財産区歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

### 2 審査の期間

令和元年10月7日から同年11月25日まで

### 3 審査の方法

平成30年度小田原市足柄財産区歳入歳出決算書及び決算附属書類の審査に当たっては、歳入簿、歳出簿等により、決算計数の正確性を確認するとともに、例月現金出納検査の資料を基に、予算の適正な執行が行われたかどうかについても審査した。

### 4 審査の結果

歳入歳出決算書及び決算附属書類については、いずれも法令の定めるところに準拠して作成されており、かつ、決算計数は正確に表示されているものと認められた。

また、予算の執行については、歳入歳出ともおおむね適正であると認められた。

財産区は自ら財産の管理を行う団体として、所有する山林を適切に管理する責務があることから、当財産区の直接の管理下にある山林の面積、立木の推定蓄積量等を的確に把握されたい。

(1) 歳入歳出決算の状況 (足柄)

(単位:円・%)

区 分		平成30年度		平成29年度		比較増減	
			構成比		構成比		増減率
予算現額 A		30,000,000	—	35,000,000	—	△ 5,000,000	△ 14.3
歳 入	調定額 B	30,776,444	—	30,528,556	—	247,888	0.8
	収入済額 C	30,776,444	99.9	30,528,556	100.0	247,888	0.8
	県支出金	717,000	2.3	0	0.0	717,000	100.0
	市支出金	0	0.0	0	0.0	0	—
	財産収入	8,470,485	27.5	7,969,982	26.1	500,503	6.3
	繰越金	21,588,959	70.1	22,558,574	73.9	△ 969,615	△ 4.3
	諸収入	0	0.0	0	0.0	0	—
	収入未済額 B-C	0	—	0	—	0	—
収入率 C/B		100.0	—	100.0	—	—	—
歳 出	支出済額 D	7,899,123	100.0	8,939,597	100.0	△ 1,040,474	△ 11.6
	議会費	1,514,376	19.2	1,619,088	18.1	△ 104,712	△ 6.5
	総務費	6,384,747	80.8	7,320,509	81.9	△ 935,762	△ 12.8
	予備費	0	0.0	0	0.0	0	—
	翌年度繰越額	0	—	0	—	0	—
	不用額 A-D	22,100,877	—	26,060,403	—	△ 3,959,526	△ 15.2
	執行率 D/A	26.3	—	25.5	—	—	—
歳入歳出差引額 C-D		22,877,321	—	21,588,959	—	1,288,362	6.0

歳入決算額(収入済額)は30,776,444円、歳出決算額(支出済額)は7,899,123円で、歳入歳出差引額は22,877,321円となり、翌年度に繰り越されている。決算額を前年度と比べると、収入済額は247,888円増加し、支出済額は1,040,474円減少している。

歳入決算額から繰越金21,588,959円、歳出決算額から積立金2,400,000円を控除して算出した実質単年度収支は3,688,362円の黒字となっている。

(2) 基金

財政調整基金の当年度末における現在高は133,000,000円で、前年度に比べ2,400,000円増加している。なお、基金残高の推移は次表のとおりである。

年 度	増 減 額	年度末現在高
平成26年度	2,000,000 円	124,600,000 円
平成27年度	2,000,000 円	126,600,000 円
平成28年度	2,000,000 円	128,600,000 円
平成29年度	2,000,000 円	130,600,000 円
平成30年度	2,400,000 円	133,000,000 円

※年度末現在高は、出納整理期間の増減を含まない3月31日現在である。

監査第46号

令和元年（2019年）11月26日

小田原市大窪財産区財産管理者

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市監査委員 岡 本 重 治

小田原市監査委員 数 馬 勝

小田原市監査委員 鈴 木 美 伸

平成30年度小田原市大窪財産区歳入歳出決算審査意見書の提出について

平成30年度小田原市大窪財産区歳入歳出決算書及び附属書類を審査したので、その結果に基づく意見書を次のとおり提出します。

## 平成30年度小田原市大窪財産区歳入歳出決算審査意見書

### 1 審査の対象

(1) 小田原市大窪財産区歳入歳出決算

(2) 決算附属書類

大窪財産区歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

### 2 審査の期間

令和元年10月7日から同年11月25日まで

### 3 審査の方法

平成30年度小田原市大窪財産区歳入歳出決算書及び決算附属書類の審査に当たっては、歳入簿、歳出簿等により、決算計数の正確性を確認するとともに、例月現金出納検査の資料を基に、予算の適正な執行が行われたかどうかについても審査した。

### 4 審査の結果

歳入歳出決算書及び決算附属書類については、いずれも法令の定めるところに準拠して作成されており、かつ、決算計数は正確に表示されているものと認められた。

また、予算の執行については、歳入歳出ともおおむね適正であると認められた。

財産区は自ら財産の管理を行う団体であり、所有する山林を適切に管理する責務がある。山林は木材の生産のほか、水源かん養、土砂災害防止など様々な機能を有しているが、近年豪雨が多発していることから、山林の適切な管理が求められており、その第一歩として、当財産区の直接の管理下にある山林の面積、立木の推定蓄積量等を的確に把握されたい。

## (1) 歳入歳出決算の状況 (大窪)

(単位:円・%)

区 分		平成30年度		平成29年度		比較増減	
			構成比		構成比		増減率
予算現額 A		1,400,000	—	1,600,000	—	△ 200,000	△ 12.5
歳 入	調定額 B	1,433,910	—	1,667,290	—	△ 233,380	△ 14.0
	収入済額 C	1,433,910	100.0	1,667,290	100.0	△ 233,380	△ 14.0
	県支出金	16,000	1.1	63,000	3.8	△ 47,000	△ 74.6
	市支出金	0	0.0	0	0.0	0	—
	財産収入	230,623	16.1	254,325	15.2	△ 23,702	△ 9.3
	繰越金	1,187,287	82.8	1,349,965	81.0	△ 162,678	△ 12.1
	諸収入	0	0.0	0	0.0	0	—
	収入未済額 B-C	0	—	0	—	0	—
収入率 C/B		100.0	—	100.0	—	—	—
歳 出	支出済額 D	428,692	100.0	480,003	100.0	△ 51,311	△ 10.7
	議会費	172,200	40.2	223,476	46.6	△ 51,276	△ 22.9
	総務費	256,492	59.8	256,527	53.4	△ 35	0.0
	予備費	0	0.0	0	0.0	0	—
	翌年度繰越額	0	—	0	—	0	—
	不用額 A-D	971,308	—	1,119,997	—	△ 148,689	△ 13.3
	執行率 D/A	30.6	—	30.0	—	—	—
歳入歳出差引額 C-D		1,005,218	—	1,187,287	—	△ 182,069	△ 15.3

歳入決算額(収入済額)は1,433,910円、歳出決算額(支出済額)は428,692円であり、歳入歳出差引額1,005,218円は翌年度に繰り越されている。決算額を前年度と比べると、収入済額は233,380円、支出済額は51,311円それぞれ減少している。

歳入決算額から繰越金1,187,287円を控除して算出した実質単年度収支は182,069円の赤字となっている。

なお、財政調整基金の当年度末における現在高は68,200,000円で、前年度末からの増減はなかった。

監査第46号

令和元年（2019年）11月26日

小田原市早川財産区財産管理者

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市監査委員 岡 本 重 治

小田原市監査委員 数 馬 勝

小田原市監査委員 鈴 木 美 伸

平成30年度小田原市早川財産区歳入歳出決算審査意見書の提出について

平成30年度小田原市早川財産区歳入歳出決算書及び附属書類を審査したので、その結果に基づく意見書を次のとおり提出します。

## 平成30年度小田原市早川財産区歳入歳出決算審査意見書

### 1 審査の対象

(1) 小田原市早川財産区歳入歳出決算

(2) 決算附属書類

早川財産区歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

### 2 審査の期間

令和元年10月7日から同年11月25日まで

### 3 審査の方法

平成30年度小田原市早川財産区歳入歳出決算書及び決算附属書類の審査に当たっては、歳入簿、歳出簿等により、決算計数の正確性を確認するとともに、例月現金出納検査の資料を基に、予算の適正な執行が行われたかどうかについても審査した。

### 4 審査の結果

歳入歳出決算書及び決算附属書類については、いずれも法令の定めるところに準拠して作成されており、かつ、決算計数は正確に表示されているものと認められた。

また、予算の執行については、歳入歳出とも適正であると認められた。

財産区は自ら財産の管理を行う団体であり、所有する山林を適切に管理する責務がある。山林は木材の生産のほか、水源かん養、土砂災害防止など様々な機能を有しているが、近年豪雨が多発していることから、山林の適切な管理が求められており、その第一歩として、当財産区の直接の管理下にある山林の面積、立木の推定蓄積量等を的確に把握されたい。



## (1) 歳入歳出決算の状況 (早川)

(単位:円・%)

区 分		平成30年度		平成29年度		比較増減	
			構成比		構成比		増減率
予算現額 A		1,317,000	—	1,383,000	—	△ 66,000	△ 4.8
歳 入	調定額 B	1,343,904	—	1,373,104	—	△ 29,200	△ 2.1
	収入済額 C	1,343,904	100.0	1,373,104	100.0	△ 29,200	△ 2.1
	県支出金	0	0.0	14,000	1.0	△ 14,000	△ 100.0
	財産収入	125,000	9.3	115,664	8.4	9,336	8.1
	繰越金	1,218,904	90.7	1,243,440	90.6	△ 24,536	△ 2.0
	諸収入	0	0.0	0	0.0	0	—
	収入未済額 B-C	0	—	0	—	0	—
	収入率 C/B	100.0	—	100.0	—	—	—
歳 出	支出済額 D	154,200	100.0	154,200	100.0	0	0.0
	議会費	144,200	93.5	144,200	93.5	0	0.0
	総務費	10,000	6.5	10,000	6.5	0	0.0
	予備費	0	0.0	0	0.0	0	—
	翌年度繰越額	0	—	0	—	0	—
	不用額 A-D	1,162,800	—	1,228,800	—	△ 66,000	△ 5.4
	執行率 D/A	11.7	—	11.1	—	—	—
歳入歳出差引額 C-D	1,189,704	—	1,218,904	—	△ 29,200	△ 2.4	

歳入決算額（収入済額）は1,343,904円、歳出決算額（支出済額）は154,200円で、歳入歳出差引額は1,189,704円となり、翌年度に繰り越されている。決算額を前年度と比べると、収入済額は29,200円減少し、支出済額は同額である。

歳入決算額から繰越金1,218,904円を控除して算出した実質単年度収支は29,200円の赤字となっている。

なお、財政調整基金の当年度末における現在高は27,800,000円で、前年度末からの増減はなかった。

監査第46号

令和元年（2019年）11月26日

小田原市下府中財産区財産管理者

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市監査委員 岡 本 重 治

小田原市監査委員 数 馬 勝

小田原市監査委員 鈴 木 美 伸

平成30年度小田原市下府中財産区歳入歳出決算審査意見書の提出について

平成30年度小田原市下府中財産区歳入歳出決算書及び附属書類を審査したので、その結果に基づく意見書を次のとおり提出します。

## 平成30年度小田原市下府中財産区歳入歳出決算審査意見書

### 1 審査の対象

(1) 小田原市下府中財産区歳入歳出決算

(2) 決算附属書類

下府中財産区歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

### 2 審査の期間

令和元年10月7日から同年11月25日まで

### 3 審査の方法

平成30年度小田原市下府中財産区歳入歳出決算書及び決算附属書類の審査に当たっては、歳入簿、歳出簿等により、決算計数の正確性を確認するとともに、例月現金出納検査の資料を基に、予算の適正な執行が行われたかどうかについても審査した。

### 4 審査の結果

歳入歳出決算書及び決算附属書類については、いずれも法令の定めるところに準拠して作成されており、かつ、決算計数は正確に表示されているものと認められた。

また、予算の執行については、歳入歳出ともおおむね適正であると認められた。

財産区は自ら財産の管理を行う団体であり、所有する山林を適切に管理する責務がある。山林は木材の生産のほか、水源かん養、土砂災害防止など様々な機能を有しているが、近年豪雨が多発していることから、山林の適切な管理が求められており、その第一歩として、当財産区の直接の管理下にある立木の推定蓄積量等を的確に把握されたい。

(1) 歳入歳出決算の状況 (下府中)

(単位:円・%)

区 分		平成30年度		平成29年度		比較増減	
			構成比		構成比		増減率
予算現額 A		5,700,000	—	5,686,000	—	14,000	0.2
歳 入	調定額 B	7,673,152	—	6,184,636	—	1,488,516	24.1
	収入済額 C	7,673,152	100.1	6,184,636	100.0	1,488,516	24.1
	県支出金	0	0.0	0	0.0	0	—
	財産収入	2,775,823	36.2	2,803,450	45.3	△ 27,627	△ 1.0
	繰越金	2,958,792	38.6	3,364,260	54.4	△ 405,468	△ 12.1
	諸収入	1,938,537	25.3	16,926	0.3	1,921,611	11,353.0
	収入未済額 B-C	0	—	0	—	0	—
	収入率 C/B	100.0	—	100.0	—	—	—
歳 出	支出済額 D	3,221,095	100.0	3,225,844	100.0	△ 4,749	△ 0.1
	議会費	837,410	26.0	404,116	12.5	433,294	107.2
	総務費	2,383,685	74.0	2,821,728	87.5	△ 438,043	△ 15.5
	予備費	0	0.0	0	0.0	0	—
	翌年度繰越額	0	—	0	—	0	—
	不用額 A-D	2,478,905	—	2,460,156	—	18,749	0.8
	執行率 D/A	56.5	—	56.7	—	—	—
歳入歳出差引額 C-D	4,452,057	—	2,958,792	—	1,493,265	50.5	

歳入決算額(収入済額)は7,673,152円、歳出決算額(支出済額)は3,221,095円で、歳入歳出差引額は4,452,057円となり、翌年度に繰り越されている。決算額を前年度と比べると、収入済額は1,488,516円増加し、支出済額は4,749円減少している。

歳入決算額から繰越金2,958,792円、歳出決算額から積立金1,600,000円を控除して算出した実質単年度収支は3,093,265円の黒字となっている。

(2) 基金

財政調整基金の当年度末における現在高は51,000,000円で、前年度に比べ1,600,000円増加している。なお、基金残高の推移は次表のとおりである。

年 度	増 減 額	年度末現在高
平成26年度	1,000,000 円	43,400,000 円
平成27年度	2,000,000 円	45,400,000 円
平成28年度	2,000,000 円	47,400,000 円
平成29年度	2,000,000 円	49,400,000 円
平成30年度	1,600,000 円	51,000,000 円

※年度末現在高は、出納整理期間の増減を含まない3月31日現在である。

監査第46号

令和元年（2019年）11月26日

小田原市桜井財産区財産管理者

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市監査委員 岡 本 重 治

小田原市監査委員 数 馬 勝

小田原市監査委員 鈴 木 美 伸

平成30年度小田原市桜井財産区歳入歳出決算審査意見書の提出について

平成30年度小田原市桜井財産区歳入歳出決算書及び附属書類を審査したので、その結果に基づく意見書を次のとおり提出します。

## 平成30年度小田原市桜井財産区歳入歳出決算審査意見書

### 1 審査の対象

(1) 小田原市桜井財産区歳入歳出決算

(2) 決算附属書類

桜井財産区歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

### 2 審査の期間

令和元年10月7日から同年11月25日まで

### 3 審査の方法

平成30年度小田原市桜井財産区歳入歳出決算書及び決算附属書類の審査に当たっては、歳入簿、歳出簿等により、決算計数の正確性を確認するとともに、例月現金出納検査の資料を基に、予算の適正な執行が行われたかどうかについても審査した。

### 4 審査の結果

歳入歳出決算書及び決算附属書類については、いずれも法令の定めるところに準拠して作成されており、かつ、決算計数は正確に表示されているものと認められた。

また、予算の執行については、歳入歳出ともおおむね適正であると認められた。

財産区は自ら財産の管理を行う団体であり、所有する山林を適切に管理する責務がある。山林は木材の生産のほか、水源かん養、土砂災害防止など様々な機能を有しているが、近年豪雨が多発していることから、山林の適切な管理が求められており、その第一歩として、当財産区の直接の管理下にある立木の推定蓄積量等を的確に把握されたい。

(1) 歳入歳出決算の状況 (桜井)

(単位:円・%)

区 分		平成30年度		平成29年度		比較増減	
			構成比		構成比		増減率
予算現額 A		3,800,000	—	3,950,000	—	△ 150,000	△ 3.8
歳 入	調定額 B	3,791,575	—	3,993,765	—	△ 202,190	△ 5.1
	収入済額 C	3,791,575	100.0	3,993,765	100.0	△ 202,190	△ 5.1
	財産収入	813,095	21.4	843,805	21.1	△ 30,710	△ 3.6
	繰越金	2,978,480	78.6	3,149,960	78.9	△ 171,480	△ 5.4
	諸収入	0	0.0	0	0.0	0	—
	収入未済額 B-C	0	—	0	—	0	—
	収入率 C/B	100.0	—	100.0	—	—	—
歳 出	支出済額 D	993,015	100.0	1,015,285	100.0	△ 22,270	△ 2.2
	議会費	379,296	38.2	393,466	38.8	△ 14,170	△ 3.6
	総務費	613,719	61.8	621,819	61.2	△ 8,100	△ 1.3
	予備費	0	0.0	0	0.0	0	—
	翌年度繰越額	0	—	0	—	0	—
	不用額 A-D	2,806,985	—	2,934,715	—	△ 127,730	△ 4.4
	執行率 D/A	26.1	—	25.7	—	—	—
歳入歳出差引額 C-D		2,798,560	—	2,978,480	—	△ 179,920	△ 6.0

歳入決算額(収入済額)は3,791,575円、歳出決算額(支出済額)は993,015円で、歳入歳出差引額は2,798,560円となり、翌年度に繰り越されている。決算額を前年度と比べると、収入済額は202,190円、支出済額は22,270円それぞれ減少している。

歳入決算額から繰越金2,978,480円、歳出決算額から積立金350,000円を控除して算出した実質単年度収支は170,080円の黒字となっている。

(2) 基金

財政調整基金の当年度末における現在高は52,000,000円で、前年度末に比べ350,000円増加している。なお、基金残高の推移は次表のとおりである。

年 度	増 減 額	年度末現在高
平成26年度	0 円	50,750,000 円
平成27年度	300,000 円	51,050,000 円
平成28年度	300,000 円	51,350,000 円
平成29年度	300,000 円	51,650,000 円
平成30年度	350,000 円	52,000,000 円

※年度末現在高は、出納整理期間の増減を含まない3月31日現在である。

監査第46号

令和元年（2019年）11月26日

小田原市豊川財産区財産管理者

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市監査委員 岡 本 重 治

小田原市監査委員 数 馬 勝

小田原市監査委員 鈴 木 美 伸

平成30年度小田原市豊川財産区歳入歳出決算審査意見書の提出について

平成30年度小田原市豊川財産区歳入歳出決算書及び附属書類を審査したので、その結果に基づく意見書を次のとおり提出します。



## 平成30年度小田原市豊川財産区歳入歳出決算審査意見書

### 1 審査の対象

(1) 小田原市豊川財産区歳入歳出決算

(2) 決算附属書類

豊川財産区歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

### 2 審査の期間

令和元年10月7日から同年11月25日まで

### 3 審査の方法

平成30年度小田原市豊川財産区歳入歳出決算書及び決算附属書類の審査に当たっては、歳入簿、歳出簿等により、決算計数の正確性を確認するとともに、例月現金出納検査の資料を基に、予算の適正な執行が行われたかどうかについても審査した。

### 4 審査の結果

歳入歳出決算書及び決算附属書類については、いずれも法令の定めるところに準拠して作成されており、かつ、決算計数は正確に表示されているものと認められた。

また、予算の執行については、歳入歳出とも適正であると認められた。

財産区は自ら財産の管理を行う団体であり、所有する山林を適切に管理する責務がある。山林は木材の生産のほか、水源かん養、土砂災害防止など様々な機能を有しているが、近年豪雨が多発していることから、山林の適切な管理が求められており、その第一歩として、当財産区の直接の管理下にある立木の推定蓄積量等を的確に把握されたい。

## (1) 歳入歳出決算の状況 (豊川)

(単位:円・%)

区 分		平成30年度		平成29年度		比較増減	
			構成比		構成比		増減率
予算現額 A		3,800,000	—	8,920,000	—	△ 5,120,000	△ 57.4
歳 入	調定額 B	3,893,310	—	8,518,884	—	△ 4,625,574	△ 54.3
	収入済額 C	3,893,310	100.0	8,518,884	100.0	△ 4,625,574	△ 54.3
	県支出金	0	0.0	0	0.0	0	—
	市支出金	0	0.0	0	0.0	0	—
	財産収入	1,525,182	39.2	1,573,567	18.5	△ 48,385	△ 3.1
	繰越金	2,323,942	59.7	6,945,317	81.5	△ 4,621,375	△ 66.5
	諸収入	44,186	1.1	0	0.0	44,186	100.0
	収入未済額 B-C	0	—	0	—	0	—
	収入率 C/B	100.0	—	100.0	—	—	—
歳 出	支出済額 D	1,214,147	100.0	6,194,942	100.0	△ 4,980,795	△ 80.4
	議会費	440,642	36.3	446,305	7.2	△ 5,663	△ 1.3
	総務費	773,505	63.7	5,748,637	92.8	△ 4,975,132	△ 86.5
	予備費	0	0.0	0	0.0	0	—
	翌年度繰越額	0	—	0	—	0	—
	不用額 A-D	2,585,853	—	2,725,058	—	△ 139,205	△ 5.1
	執行率 D/A	32.0	—	69.5	—	—	—
歳入歳出差引額 C-D	2,679,163	—	2,323,942	—	355,221	15.3	

歳入決算額（収入済額）は3,893,310円、歳出決算額（支出済額）は1,214,147円で、歳入歳出差引額は2,679,163円となり、翌年度に繰り越されている。決算額を前年度と比べると、収入済額は4,625,574円、支出済額は4,980,795円それぞれ減少している。

歳入決算額から繰越金2,323,942円を控除して算出した実質単年度収支は355,221円の黒字となっている。なお、財政調整基金の当年度末における現在高は、87,000,000円で、前年度末からの増減はなかった。

監査第46号

令和元年（2019年）11月26日

小田原市上府中財産区財産管理者

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市監査委員 岡 本 重 治

小田原市監査委員 数 馬 勝

小田原市監査委員 鈴 木 美 伸

平成30年度小田原市上府中財産区歳入歳出決算審査意見書の提出について

平成30年度小田原市上府中財産区歳入歳出決算書及び附属書類を審査したので、その結果に基づく意見書を次のとおり提出します。

## 平成30年度小田原市上府中財産区歳入歳出決算審査意見書

### 1 審査の対象

(1) 小田原市上府中財産区歳入歳出決算

(2) 決算附属書類

上府中財産区歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

### 2 審査の期間

令和元年10月7日から同年11月25日まで

### 3 審査の方法

平成30年度小田原市上府中財産区歳入歳出決算書及び決算附属書類の審査に当たっては、歳入簿、歳出簿等により、決算計数の正確性を確認するとともに、例月現金出納検査の資料を基に、予算の適正な執行が行われたかどうかについても審査した。

### 4 審査の結果

歳入歳出決算書及び決算附属書類については、いずれも法令の定めるところに準拠して作成されており、かつ、決算計数は正確に表示されているものと認められた。

また、予算の執行については、歳入歳出ともおおむね適正であると認められた。

財産区は自ら財産の管理を行う団体として、所有する山林を適切に管理する責務があることから、当財産区の直接の管理下にある立木の推定蓄積量等を的確に把握されたい。

(1) 歳入歳出決算の状況 (上府中)

(単位:円・%)

区 分		平成30年度		平成29年度		比較増減	
			構成比		構成比		増減率
予算現額 A		11,900,000	—	10,320,000	—	1,580,000	15.3
歳 入	調定額 B	12,274,786	—	4,410,972	—	7,863,814	178.3
	収入済額 C	12,274,786	99.9	4,410,972	100.0	7,863,814	178.3
	県支出金	3,598,000	29.3	0	0.0	3,598,000	100.0
	市支出金	0	0.0	0	0.0	0	—
	財産収入	5,610,254	45.7	2,701,280	61.2	2,908,974	107.7
	繰越金	2,852,712	23.2	1,709,692	38.8	1,143,020	66.9
	諸収入	213,820	1.7	0	0.0	213,820	100.0
	収入未済額 B-C	0	—	0	—	0	—
収入率 C/B	100.0	—	100.0	—	—	—	
歳 出	支出済額 D	8,131,612	100.0	1,558,260	100.0	6,573,352	421.8
	議会費	351,621	4.3	326,138	20.9	25,483	7.8
	総務費	7,779,991	95.7	1,232,122	79.1	6,547,869	531.4
	予備費	0	0.0	0	0.0	0	—
	翌年度繰越額	0	—	0	—	0	—
	不用額 A-D	3,768,388	—	8,761,740	—	△ 4,993,352	△ 57.0
	執行率 D/A	68.3	—	15.1	—	—	—
歳入歳出差引額 C-D	4,143,174	—	2,852,712	—	1,290,462	45.2	

歳入決算額(収入済額)は12,274,786円、歳出決算額(支出済額)は8,131,612円で、歳入歳出差引額は4,143,174円となり、翌年度に繰り越されている。決算額を前年度と比べると、収入済額は7,863,814円、支出済額は6,573,352円それぞれ増加している。

歳入決算額から繰越金2,852,712円、歳出決算額から積立金1,000,000円を控除して算出した実質単年度収支は2,290,462円の黒字となっている。

(2) 基金

財政調整基金の当年度末における現在高は41,000,000円で、前年度に比べ1,000,000円増加している。なお、基金残高の推移は次表のとおりである。

年 度	増 減 額	年度末現在高
平成26年度	1,000,000 円	35,500,000 円
平成27年度	2,500,000 円	38,000,000 円
平成28年度	1,500,000 円	39,500,000 円
平成29年度	500,000 円	40,000,000 円
平成30年度	1,000,000 円	41,000,000 円

※年度末現在高は、出納整理期間の増減を含まない3月31日現在である。

監査第46号

令和元年（2019年）11月26日

小田原市酒匂財産区財産管理者

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市監査委員 岡 本 重 治

小田原市監査委員 数 馬 勝

小田原市監査委員 鈴 木 美 伸

平成30年度小田原市酒匂財産区歳入歳出決算審査意見書の提出について

平成30年度小田原市酒匂財産区歳入歳出決算書及び附属書類を審査したので、その結果に基づく意見書を次のとおり提出します。

## 平成30年度小田原市酒匂財産区歳入歳出決算審査意見書

### 1 審査の対象

(1) 小田原市酒匂財産区歳入歳出決算

(2) 決算附属書類

酒匂財産区歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

### 2 審査の期間

令和元年10月7日から同年11月25日まで

### 3 審査の方法

平成30年度小田原市酒匂財産区歳入歳出決算書及び決算附属書類の審査に当たっては、歳入簿、歳出簿等により、決算計数の正確性を確認するとともに、例月現金出納検査の資料を基に、予算の適正な執行が行われたかどうかについても審査した。

### 4 審査の結果

歳入歳出決算書及び決算附属書類については、いずれも法令の定めるところに準拠して作成されており、かつ、決算計数は正確に表示されているものと認められた。

また、予算の執行については、歳入歳出ともおおむね適正であると認められた。

財産区は自ら財産の管理を行う団体であり、所有する山林を適切に管理する責務がある。山林は木材の生産のほか、水源かん養、土砂災害防止など様々な機能を有しているが、近年豪雨が多発していることから、山林の適切な管理が求められており、その第一歩として、当財産区の直接の管理下にある山林の面積、立木の推定蓄積量等を的確に把握されたい。

(1) 歳入歳出決算の状況 (酒匂)

(単位:円・%)

区 分		平成30年度		平成29年度		比較増減	
			構成比		構成比		増減率
予算現額 A		3,000,000	—	3,167,000	—	△ 167,000	△ 5.3
歳 入	調定額 B	3,038,463	—	3,138,183	—	△ 99,720	△ 3.2
	収入済額 C	3,038,463	100.0	3,138,183	100.0	△ 99,720	△ 3.2
	財産収入	2,099,110	69.1	2,107,680	67.2	△ 8,570	△ 0.4
	繰越金	939,353	30.9	1,030,503	32.8	△ 91,150	△ 8.8
	諸収入	0	0.0	0	0.0	0	—
	収入未済額 B-C	0	—	0	—	0	—
	収入率 C/B	100.0	—	100.0	—	—	—
歳 出	支出済額 D	1,079,248	100.0	2,198,830	100.0	△ 1,119,582	△ 50.9
	議会費	286,227	26.5	288,830	13.1	△ 2,603	△ 0.9
	総務費	793,021	73.5	1,910,000	86.9	△ 1,116,979	△ 58.5
	予備費	0	0.0	0	0.0	0	—
	翌年度繰越額	0	—	0	—	0	—
	不用額 A-D	1,920,752	—	968,170	—	952,582	98.4
	執行率 D/A	36.0	—	69.4	—	—	—
歳入歳出差引額 C-D	1,959,215	—	939,353	—	1,019,862	108.6	

歳入決算額(収入済額)は3,038,463円、歳出決算額(支出済額)は1,079,248円で、歳入歳出差引額は1,959,215円となり、翌年度に繰り越されている。決算額を前年度と比べると、収入済額は99,720円、支出済額は1,119,582円それぞれ減少している。

歳入決算額から繰越金939,353円、歳出決算額から積立金400,000円を控除して算出した実質単年度収支は1,419,862円の黒字となっている。

(2) 基金

財政調整基金の当年度末における現在高は62,000,000円で、前年度に比べ400,000円増加している。なお、基金残高の推移は次表のとおりである。

年 度	増 減 額	年度末現在高
平成26年度	1,300,000 円	57,100,000 円
平成27年度	1,600,000 円	58,700,000 円
平成28年度	1,300,000 円	60,000,000 円
平成29年度	1,600,000 円	61,600,000 円
平成30年度	400,000 円	62,000,000 円

※年度末現在高は、出納整理期間の増減を含まない3月31日現在である。



監査第46号

令和元年（2019年）11月26日

小田原市片浦財産区財産管理者

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市監査委員 岡 本 重 治

小田原市監査委員 数 馬 勝

小田原市監査委員 鈴 木 美 伸

平成30年度小田原市片浦財産区歳入歳出決算審査意見書の提出について

平成30年度小田原市片浦財産区歳入歳出決算書及び附属書類を審査したので、その結果に基づく意見書を次のとおり提出します。

## 平成30年度小田原市片浦財産区歳入歳出決算審査意見書

### 1 審査の対象

(1) 小田原市片浦財産区歳入歳出決算

(2) 決算附属書類

片浦財産区歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

### 2 審査の期間

令和元年10月7日から同年11月25日まで

### 3 審査の方法

平成30年度小田原市片浦財産区歳入歳出決算書及び決算附属書類の審査に当たっては、歳入簿、歳出簿等により、決算計数の正確性を確認するとともに、例月現金出納検査の資料を基に、予算の適正な執行が行われたかどうかについても審査した。

### 4 審査の結果

歳入歳出決算書及び決算附属書類については、いずれも法令の定めるところに準拠して作成されており、かつ、決算計数は正確に表示されているものと認められた。

また、予算の執行については、歳入歳出ともおおむね適正であると認められた。

財産区は自ら財産の管理を行う団体として、所有する山林を適切に管理する責務があることから、当財産区の直接の管理下にある山林の面積、立木の推定蓄積量等を的確に把握されたい。

(1) 歳入歳出決算の状況 (片浦)

(単位:円・%)

区 分		平成30年度		平成29年度		比較増減	
			構成比		構成比		増減率
予算現額 A		33,000,000	—	30,585,000	—	2,415,000	7.9
歳 入	調定額 B	42,142,082	—	36,753,226	—	5,388,856	14.7
	収入済額 C	42,142,082	100.0	36,753,226	100.0	5,388,856	14.7
	県支出金	8,520,000	20.2	5,230,000	14.3	3,290,000	62.9
	財産収入	17,823,951	42.3	14,895,677	40.5	2,928,274	19.7
	繰入金	0	0.0	0	0.0	0	—
	繰越金	15,798,131	37.5	16,327,549	44.4	△ 529,418	△ 3.2
	諸収入	0	0.0	300,000	0.8	△ 300,000	△ 100.0
	収入未済額 B-C	0	—	0	—	0	—
収入率 C/B		100.0	—	100.0	—	—	—
歳 出	支出済額 D	28,322,587	100.0	20,955,095	100.0	7,367,492	35.2
	議会費	742,538	2.6	761,598	3.6	△ 19,060	△ 2.5
	総務費	27,580,049	97.4	20,193,497	96.4	7,386,552	36.6
	予備費	0	0.0	0	0.0	0	—
	翌年度繰越額	0	—	0	—	0	—
	不用額 A-D	4,677,413	—	9,629,905	—	△ 4,952,492	△ 51.4
	執行率 D/A	85.8	—	68.5	—	—	—
歳入歳出差引額 C-D		13,819,495	—	15,798,131	—	△ 1,978,636	△ 12.5

歳入決算額(収入済額)は42,142,082円、歳出決算額(支出済額)は28,322,587円で、歳入歳出差引額は13,819,495円となり、翌年度に繰り越されている。決算額を前年度と比べると、収入済額は5,388,856円、支出済額は7,367,492円それぞれ増加している。

歳入決算額から繰越金15,798,131円、歳出決算額から積立金2,500,000円を控除して算出した実質単年度収支は521,364円の黒字となっている。

(2) 基金

財政調整基金の当年度末における現在高は172,000,000円で、前年度に比べ2,500,000円増加している。なお、基金残高の推移は次表のとおりである。

年 度	増 減 額	年度末現在高
平成26年度	1,000,000 円	175,500,000 円
平成27年度	0 円	175,500,000 円
平成28年度	△8,000,000 円	167,500,000 円
平成29年度	2,000,000 円	169,500,000 円
平成30年度	2,500,000 円	172,000,000 円

※年度末現在高は、出納整理期間の増減を含まない3月31日現在である。

※平成28年度は、取り崩し10,000,000円、積立金2,000,000円で8,000,000円の減。

監査第46号

令和元年（2019年）11月26日

小田原市曾我財産区財産管理者

小田原市長 加藤 憲一 様

小田原市監査委員 岡 本 重 治

小田原市監査委員 数 馬 勝

小田原市監査委員 鈴 木 美 伸

平成30年度小田原市曾我財産区歳入歳出決算審査意見書の提出について

平成30年度小田原市曾我財産区歳入歳出決算書及び附属書類を審査したので、その結果に基づく意見書を次のとおり提出します。

## 平成30年度小田原市曾我財産区歳入歳出決算審査意見書

### 1 審査の対象

(1) 小田原市曾我財産区歳入歳出決算

(2) 決算附属書類

曾我財産区歳入歳出決算事項別明細書

実質収支に関する調書

財産に関する調書

### 2 審査の期間

令和元年10月7日から同年11月25日まで

### 3 審査の方法

平成30年度小田原市曾我財産区歳入歳出決算書及び決算附属書類の審査に当たっては、歳入簿、歳出簿等により、決算計数の正確性を確認するとともに、例月現金出納検査の資料を基に、予算の適正な執行が行われたかどうかについても審査した。

### 4 審査の結果

歳入歳出決算書及び決算附属書類については、いずれも法令の定めるところに準拠して作成されており、かつ、決算計数は正確に表示されているものと認められた。

また、予算の執行については、歳入歳出とも適正であると認められた。

財産区は自ら財産の管理を行う団体であり、所有する山林を適切に管理する責務がある。山林は木材の生産のほか、水源かん養、土砂災害防止など様々な機能を有しているが、近年豪雨が多発していることから、山林の適切な管理が求められており、その第一歩として、当財産区の直接の管理下にある立木の推定蓄積量等を的確に把握されたい。

(1) 歳入歳出決算の状況 (曾我)

(単位:円・%)

区 分		平成30年度		平成29年度		比較増減	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
予算現額 A		1,950,000	—	1,670,000	—	280,000	16.8
歳 入	調定額 B	1,949,270	—	1,794,529	—	154,741	8.6
	収入済額 C	1,949,270	100.0	1,794,529	100.0	154,741	8.6
	財産収入	626,329	32.1	628,187	35.0	△ 1,858	△ 0.3
	繰越金	1,322,941	67.9	1,042,910	58.1	280,031	26.9
	諸収入	0	0.0	123,432	6.9	△ 123,432	100.0
	収入未済額 B-C	0	—	0	—	0	—
	収入率 C/B	100.0	—	100.0	—	—	—
歳 出	支出済額 D	532,517	100.0	471,588	100.0	60,929	12.9
	議会費	201,300	37.8	197,400	41.9	3,900	2.0
	総務費	331,217	62.2	274,188	58.1	57,029	20.8
	予備費	0	0.0	0	0.0	0	—
	翌年度繰越額	0	—	0	—	0	—
	不用額 A-D	1,417,483	—	1,198,412	—	219,071	18.3
	執行率 D/A	27.3	—	28.2	—	—	—
歳入歳出差引額 C-D		1,416,753	—	1,322,941	—	93,812	7.1

歳入決算額(収入済額)は1,949,270円、歳出決算額(支出済額)は532,517円で、歳入歳出差引額は1,416,753円となり、翌年度に繰り越されている。決算額を前年度と比べると、収入済額は154,741円、支出済額は60,929円それぞれ増加している。

歳入決算額から繰越金1,322,941円、歳出決算額から積立金200,000円を控除して算出した実質単年度収支は293,812円の黒字となっている。

(2) 基金

財政調整基金の当年度末における現在高は3,400,000円で、前年度に比べ200,000円増加している。なお、基金残高の推移は次表のとおりである。

年 度	増 減 額	年度末現在高
平成26年度	0 円	2,600,000 円
平成27年度	200,000 円	2,800,000 円
平成28年度	200,000 円	3,000,000 円
平成29年度	200,000 円	3,200,000 円
平成30年度	200,000 円	3,400,000 円

※年度末現在高は、出納整理期間の増減を含まない3月31日現在である。